

大田原市生涯活躍のまち (大田原市版CCRC)構想概要版

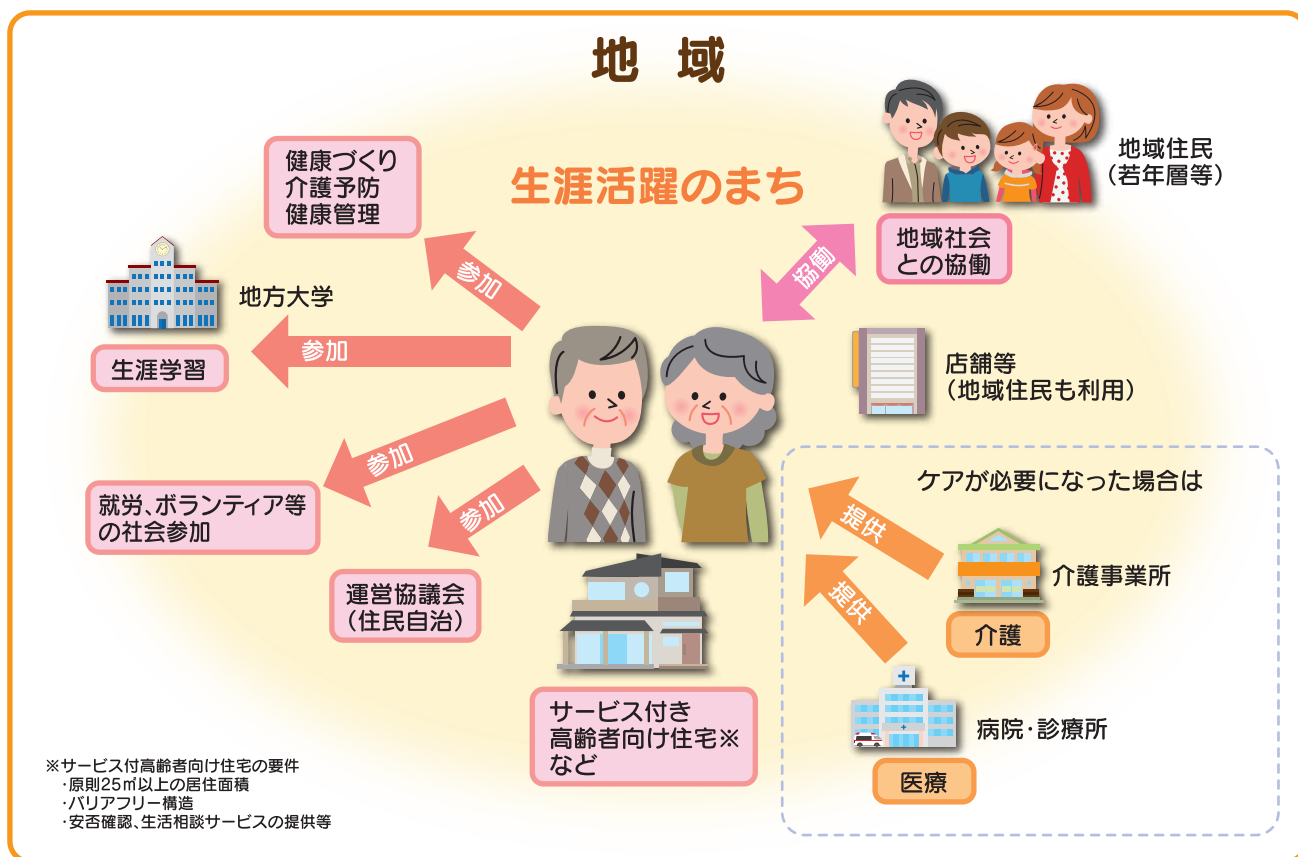
国の生涯活躍のまち(日本版CCRC)構想

国は「まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、「地方移住の推進」を掲げ、主な施策として「生涯活躍のまち(日本版CCRC)構想」を取りまとめました。

生涯活躍のまちとは、東京圏をはじめとする地域の高齢者が、希望に応じ地方や「まちなか」に移り住み、地域住民や多世代と交流しながら、健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができるような地域づくりを目指すものです。

「生涯活躍のまち」構想における高齢者の生活のイメージ

- ①健康でアクティブな生活の実現と継続的ケアの提供
- ②自立した生活ができる居住環境の提供
- ③入居者の参画の下、透明性が高く安定した事業運営によるコミュニティの形成を一体的に実現



※事業の透明性・安定性の確保の方策:入居者の参画、情報公開、事業の継続性確保等

大田原市生涯活躍のまち(大田原市版CCRC)構想

医療・福祉のまちづくりを推進してきた大田原市では、「医療・福祉・健康」を地域資源として捉え、国の生涯活躍のまち構想を踏まえ、本市ならではの高齢者が安全で安心して暮らせるまちづくりの方向性を示した「大田原市生涯活躍のまち(大田原市版CCRC)構想」を策定しました。

大田原市生涯活躍の まちのねらい

取組の意義

- 栃木県北地域の拠点都市、八溝山周辺地域定住自立圏中心市の視点から
⇒地域における「健康長寿・生涯活躍」の先行モデルとしての役割
- 「医療・福祉のまちづくり」「大田原市医療福祉産業都市構想」の視点から
⇒医療機器系製造業、国際医療福祉大学、医療機関、介護施設等の集積を活かした地域経済の活性化
- 生涯活躍の視点から
⇒社会活動ボランティア、国際医療福祉大学と連携した生涯学習プログラム、グリーンツーリズム・温泉・ゴルフ等のレジャー等へのアクティブシニアの参加
- 移住者受入れの視点から
⇒東京圏における移住希望を持つアクティブシニアの受入れによる人口減少対策

アンケート結果から見える現状の課題と今後の展開

	東京圏における 大田原市の認知度	栃木県における 大田原市の認知度	大田原市の地域資源
現在	栃木県ゆかり層であっても、来訪率は40%未満	栃木県内であっても大田原市の強み(医療福祉体制など)について十分な理解は得られていない	『生涯活躍のまち』の構成要素は点在しているものの、それをつなぐ仕組みの不足
未来	お試し居住やPRの強化などにより大田原市のファン層を拡大	県北地域を中心に充実した生涯プログラムを整備し、当地域におけるプレゼンスを発揮	『生涯活躍のまち』に関する協議会や研究会の開催を通じて、地域資源創出を形成

大田原市の地域包括ケアシステムをベースにした
大田原市ならではの生涯活躍のまちづくりが可能

大田原市生涯活躍のまちの コンセプトと将来像

《目指す将来像》

栃木県北地域及び八溝山周辺地域定住自立圏住民の「健康長寿・生涯活躍」、持続可能な地域づくりを牽引する生涯活躍のまちの実現

《コンセプト》

病院・大学・企業等の医療・福祉関連施設の集積、恵まれた自然、地域の拠点としての都市機能を活用し、全市を挙げた「健康長寿・生涯活躍」を実現する生涯活躍のまち

地域性から想定される3つのパターン

①中心市街地における都市機能集積を活かした高齢者活躍環境強化モデル

東京圏や近隣市町から移住してきたアクティブシニアや、市内における医療近接、生活利便を重視される方の住み替えを想定する。空家等の既存ストックを活用し、必要に応じて施設を新設する。「まちなか」ならではの活動、活躍の場を充実させる。

②農山村部における多世代共生コミュニティモデル

既存コミュニティの互助・共助を尊重しつつ、地域の高齢者の生活支援強化と農業・観光・地域活動の担い手となり得る若年層の多世代共生を目指す。地域内の空家、廃校等の遊休施設を積極的に活用する。また、「まちなか」居住者にとっての活動、活躍の場としての役割も持つ。

③国際医療福祉大学近隣地域における医療福祉サービス充実強化モデル

国際医療福祉大学や医療福祉関連企業等との連携による先進的な医療福祉のサービス・機器の提供等を行い、それを大学、企業の研究開発、商品開発に役立てる。居住施設として、大学近辺のアパート等の活用を図る。



大田原市生涯活躍のまちの実現への 課題と取組の方向性

○市民の「健康長寿・生涯活躍」に向けた全市的な取組

将来的な市外からのアクティブシニア人材の受入れも視野に入れつつ、まずは市民の健康長寿・生涯活躍に向けた、地域包括ケアシステムを発展させた地域連携のプログラム構築を推進する。在宅での自立した生活・活躍環境の向上とともに「生涯活躍」を実現するために、各分野における様々な活動を充実させることを優先的に実施する。

○3つの展開パターン実現に向けた重点エリアにおける推進・協働体制の構築

本市の地域資源の分布及び地域課題を踏まえ、地域の特性を活かした3つのパターンをモデルケースとして展開し、重点的な環境向上を行い、将来的には全市に拡大させる。その際、各パターンにおける事業展開は、各種の活動、ソフトプログラムの活動の充実を優先させ、プログラム体験者の移住・住み替えに併せて、段階的な施設整備を行う。施設整備にあたっては、既存ストックの有効活用を図る。

事業の推進主体は、企業、市民、行政、金融機関等の連携・協働体制を構築し、地域コミュニティの中で事業が展開される仕組みとする。

○地域活性化の担い手となる人材誘致に向けた、交流や二地域居住等の促進

アクティブシニアの移住促進については、現役時代からの日帰り・短期滞在、リタイア後の二地域居住、段階的移住等、段階的にアプローチすることで本市との関係性を深め、地域との交流を図りながら、「大田原市生涯活躍のまち」を理解してもらうことで、移住後に地域の担い手となる人材育成を図る。

大田原市生涯活躍のまちの実現